

## カラスウリ *Trichosanthes cucumeroides* (Ser.) Maxim. (ウリ科 Cucurbitaceae)

夏～秋、野山を歩いていると、人家に近いやぶや垣根などに絡みついているつる性の植物を見かけます。盛夏の日中、開花している花を見ることは、まず、ありませんが、秋になるとピンポン玉より少し大きな楕円球形の赤い瓜のような果実がぶら下がっているのをよく見かけます。これがカラスウリです。なぜ、カラスウリと言うのかについてはカラスが好んで食べるからとか、食用には適さないが、そこそこの大きさのあるウリなのでカラスの名がついたとか、諸説があり、はっきりしません。本植物は本州～九州～沖縄、中国、台湾に分布するつる性、雌雄異株の多年草です。花はまるで白いレースのカーテンのようで、日没とともに白色の一日花を開き、日の出とともに萎んでしまい、見る影もなくなります。花には筒の長い花冠があり蛾の吸蜜に適した形をしています。そして、わずかに芳香があり、夏の夜、どこからともなく漂ってくる芳香は花の蜜を求めて活動する蛾の仲間を誘引します。



写真1 カラスウリ (花)

また、種子はまるでカマキリの頭のような形です。扁平で左右に翼をもち、「奴」、「カマキリの頭」、あるいは、「大黒天」に似ているなどといわれ、この形を結び文に見立て「玉章、玉梓(タマズサ)」と言われたこともありました。

根は王瓜根(オウカコン)、種子は王瓜仁(オウカニン)という生薬になります。どちらも秋



写真2 カラスウリ (種子)



写真3 カラスウリ (果実)



写真4 スズメウリ (果実)

に採取し、水洗後、根は輪切りにした後、日干しにし、種子は陰干しにして保存します。根には多量のデンプンやタンパク質、果実にはβ-カロチンやリコペン、種子には脂肪油とタンパク質などが含まれ、下血、黄疸、月経不順、咳止めなどに用いられてきました。我が国では、古来、根からのデンプンを天花粉(テンカフン)と呼び、同属のキカラスウリやシナカラスウリ[栝楼根(カココン)]と同様に、小児の皮膚病や汗知らずに用いられたそうです。キカラスウリやシナカラスウリ(チョウセンカラスウリ)はカラスウリに似ていますが、果実はカラスウリより一回り大きく、黄色く熟し、種子に翼はありません。また、両者の葉もよく似ていますが、カラスウリの葉は濃い緑色をしていて細かい毛が多く、つやがありません。一方、キカラスウリの葉は黄緑色で毛が少なく、つやがあるので見分けがつけます。そして、カラスウリより一回り小さいウリに、属は異なりますが、灰白色の直径約1cm位の果実をつけるつる性、一年草のスズメウリがあり、河川敷や湿った土地で見かけます。